



出版される「赤ちゃん力」人との関わりが人を育む

「赤ちゃん登校日」意義知って

内容や成果を本に

高塚・鳥大准教授

赤ちゃんとその親に、児童や生徒とのふれあい授業に参加してもらった教育実践「赤ちゃん登校日」に取り組んでいる鳥取大学医学部の高塚人志准教授が、実践内容やその成果をまとめた本「赤ちゃん力 人との関わりが人を育む」を出版する。赤ちゃんとのふれあい体験学習の手引書ともなる本で、十五日に発行される。子どもたちに「役立ち感」が生まれ、子育て中の親の負担軽減にもつながるとされる。「赤ちゃん登校日」の意義を広く知ってもらおうと出版を企画。事前学習から赤ちゃんとの対面、終了後の対応まで、写真をふんだんに使いながら、順序立てて説明している。

体験した子どもたちの反応や体験談、赤ちゃんの親へのインタビューも掲載。実践を具体化するためのポイント、学習計画と授業案、実践した行政や学校、NPOなどの声も紹介している。

高塚准教授は「そばにいる人を癒やしたり、元気をあげたり、心の大そうじができるのが赤ちゃん力」と強調。「学校現場に限らず、いろいろな人を知ってもらい、現在の自分の人間関係について考えてもらえれば」と話している。

B5判、百五十九頁。エイデル研究所刊。千七百十四円(税別)。全国の主要書店で扱う。